



第3回公開審査会 8グループ決まる!



今よりも生き生きとした都心に住み、今より魅力的なまちで働き、今より楽しい街並みをつくりたい……そんな千代田区の「まちづくり」に取り組んだり、これから活動したいと計画しているグループを支援する千代田区街づくり推進公社の事業、「千代田まちづくりサポート」。その第3回公開審査会が、昨年10月21日(土)、神田さくら館7階研修室で行われました。14グループが応募、8グループが選ばれ、50万円～10万円の助成が決定しました。

審査は午前中、14のグループの代表が大きな説明図など資料を元に、3分間の持ち時間を使って熱のこもった発表をしました。午後からの質疑応答・討議、1次審査、2次審査もいつも通り完全公開制で行われ、最終的に8グループが助成対象に決まりました。

内訳は、初年度から3年連続で選ばれたグループが3組、2年目が2組、初参加が3組。

今回で卒業となる“3年生”組は、神田の祭りを徹底的に調べ、この3月に写真集を発刊することになった「江都天下祭研究会 神田倶楽部」など、じっくりと成果を練り上げているグループです。また“新入組”の中には、そば屋を通じて神田を活性化させようという若旦那グループや、JR秋葉原駅の構内に楽しい壁画を描くなど、都心にアートプロジェクトを展開させようという若手

CONTENTS

〔第1部 プレゼンテーション〕

グループ名	頁
1. TOKYO住環境研究会	2
2. 江都天下祭研究会 神田倶楽部	2
3. 外堀遊縁研究会	2
4. まちづくり神田工房	2
5. 飯田橋地域の開発を考える会	3
6. 東京ロードランナーズ・クラブ	3
7. 番町まちづくり文学館	3
8. 花咲かじいさん	4
9. 歴史・文化のまちづくり研究会	4
10. 神田蕎麦の会	4
11. フラワサークル2000	4
12. AKIBART実行委員会	5
13. アマチュア無線「新千代田クラブ」	5
14. みんなの居場所提案会	5

〔第2部 質疑応答・討議〕

〔表〕 評価・助成金申請額・決定額

〔第3部 総評〕 卯月盛夫審査委員長	8
審査員講評	

美術家など、ユニークなまちづくりグループが加わりました。

3回目の審査とあって厳選でしたが、50万円の申請額満額の助成となったグループが4組も出て、一層中身の濃い活躍が期待されます。

各グループの発表内容や、討議、審査員の講評などを次頁以降ご紹介いたします。

◎千代田まちづくりサポートとは

千代田区を舞台とした“市民レベル”の「まちづくり活動」に対して行っている千代田区街づくり推進公社の助成制度です。

ここで言う「まちづくり活動」とは、「現在、将来にわたって住みよい魅力的な都市環境づくりに貢献する活動」のことです。例えば、「地域に根ざした具体的なまちづくりや、まちづくりへの提案をまとめる活動」であり、「まちづくりに関する調査研究や情報提供、ワークショップ、シンポジウム活動」などです。

1998年度から始まり、初年度、2年度とも各15団体に助成金が出ました。千代田区のサポート事業の場合、助成金は、税金からではなく、公社の出捐企業や賛助会員(法人・個人)の浄財によるのが特色です。毎年10月に公開審査が行われ、選ばれた助成団体は、11月から翌年

10月までの1年間活動し、中間発表1回と最終発表を公開で行い、会計報告を提出します。審査は毎年1回行われ、継続して選ばれることもあります。原則として最高3回までとなっています。

助成額は、年間総額300万円。1件当たり5万円～50万円。助成の内容は、①活動を行うのに必要な実費 ②活動に必要な講師や専門家に対する謝礼など。

応募資格は、千代田区のまちづくりに結びつくテーマで、3人以上で構成されるグループであれば、千代田区在住、在勤、在学の如何、プロ・アマチュア、国籍など一切不問です。ただし、政治、宗教、営利を目的とする活動は対象外とします。

詳細は、公社企画情報課(8ページに連絡先記載)まで。ホームページもご参照ください。

プレゼンテーション

〔審査会委員〕（敬称略）

卯月盛夫（会長・早稲田大学教授）◇北沢猛（副会長・東京大学助教授）◇伊東敏雄（賛助会員）◇三枝敏男（公社評議員）◇平岩千代子（電通総研副主任研究員）◇森まゆみ（作家・地域誌編集人）◇石井峻（千代田区都市整備部長）

発表順、要約は、各グループの申請資料と当日の発表を元に、事務局の責任においてまとめさせていただきました



1. TOKYO住環境研究会

前回の最終発表会では自作のCD-ROMを見ていただいたが、今回はそれをさらに完成させ、まちのようすの変化を展示、配布、広報活動などを行いたい。まず、CD-ROM版「飯田橋、富士見、九段の街角1980～2000」の修正と追加データの作成



をし、メンバーで2000年大晦日～2001年正月の撮影をし、それを最終収録データとする。

後半は、展示活動として、CD-ROMの内容を中心としてパネルを制作し、飯田橋駅隣のビル「ラムラ」1階のショーウィンドウを借りて、年2回展示する予定。もう一つは、ホームページを新たに開設して、公社とも連動して情報の発信、交換をしていきたい。できれば、メールマガジンもつくりたいが、発行できるかどうかよく検討して、実現できればと思っている。

◇

Q・パネルで展示するということが、折角パソコンでやったことの良さがあまり出せないのではないかと？

A・コンピューターは誰でも見る事ができるというわけではないので、多くの方に見ていただくためには、両方の方法が大事ではないかと思う。

2. 江都天下祭研究会 神田倶楽部

神田祭りを中心に3年間やってきて、かなり成果があった。各グループ、進歩した

し、みんなでコミュニティの輪を広げながら、神田のまちづくりに活かし、「まちおこし」をしてきた。

毎年、祭りを中心とした勉強会や見学会を開き、1年目に神田祭りの取材、2年目には山王祭りの取材。神田祭りに関する本



の地図や境界の沿革などを発表した。

今回3年目になり、神田祭りの本を編集出版する。今年は4月に小倉町の天王祭があり、その取材もした。

これまでは、祭りの神輿を中心に写真にして取材した。今年は各町会特有の「手拭い」「半纏」「浴衣」などを写真でも紹介するなどの工夫をしたい。

しかしなんとといっても、出版に費用がかかると思う。来年以降も、各祭りを紹介する本の出版を続け、長い時間をかけて、祭りを「まちおこし」に役立てていきたいと思っている。

◇

Q・今年の目標は、これまで取材したことをまとめて、本の編集と出版をすることになるのか？

A・神田祭りの写真集と106ある町会の沿革をまとめて出版する。各町会の人から自信をもち、まちを誇りと思えるようなものを作成したい。費用は150～200万円くらいかかると思う。一応出版社も決まっている。

3. 外堀遊縁研究会

国指定史跡の牛込見附の価値を見直して地域活性につなげようという私たちの

活動も3年目に入る。

1)見附周辺の保全、2)国指定史跡の保存、3)周辺街並みの改良、4)地域観光商業の創造、5)郷土史の伝承、などをめざし、いろいろな文献を調べたりして取り組んできた。かつてあったらしい鯨をテーマに江戸城グッズを試作した。

また見附にあったお稲荷さんがどこにいったかを調査し、『牛込御門内桐生稲荷の履歴』を編纂、郷土史伝承第一話として原稿が6割程まとまった。

一方、いまは単なる石山にすぎないような見附の石垣が崩れそうなので、その修復をどうするか、住民のアンケートなども行い検討していく。

牛込のことだけでなく周辺街並み、九段坂の交通問題や富士見地区全体について、住人の心のふるさとをつくるために活動



していきたい。今後の活動に向けてNPOの定款づくりに取り組み申請する予定である。

◇

Q・いろいろな活動目標が出ているが、あまり多すぎて焦点がボケるようなことはないか？

A・牛込見附のことをやろうとすると、いろんな問題が関連して見えてくる。その一つ一つを解決していかないと、結局できなくなる。

4. まちづくり神田工房

私どものテーマは、街路空間を診る、つまり見直すということ。第1回では公園広

場、公開空地を考えた。第2回ではまちに賑わいをもたらす公道の積極的利用を考えた。ヨーロッパなどの道の使い方を日本でもできないかどうか。

さらに、都心の街路空間を快適で魅力あるものにデザインする必要があると考える。まちにそぐわない大きな看板や電柱、



高く長い塀がまちの中にあるとか、マンションの裏側やゴミ箱などが快適な公共空間を奪っていると思う。

今回はそういう点を改良する手法を提案していこうという活動だ。

生活空間・産業の設備・道具などが、どう変わり、どんな景観を見せているか実態調査をする。実際にまちを歩いて観察、評価、分析して、良いと思われる事例を取材・インタビューして公表する。また、アンケート結果などを参考にして改良すべき点を提案していきたい。

これまでは、情報誌『ひらけ！玉手箱』で情報発信をしてきたが、今後は『まちネット』と合わせてやっていく。地域の町会などと公開講座も開きたい。



Q・情報発信はよくやってきたと思うが提案の方は誰にどういうふうにしていくか、具体的に示す必要はないか？

A・地域の町会とコミュニケーションをとっているのだから、お祭りなどでも、発表や展示をしていきたい。

5. 飯田橋地域の開発を考える会

活動の3年目に、ぜひステップアップして、4年目の活動につなげたい。主な活動内容として4つの項目に分けた。



1) JR飯田橋駅舎について、2)日本橋川について、3)JR貨物跡再開発地について、4)既存の街について。この4つに絞ったのは、異質な問題が少しずつ関連しているからだ。1)は、公共の建物に対して、どういう運動ができるか。21世紀の新しいまちの顔になるような駅舎を考えて、たたき台をつくり、模型を作成した。駅舎の二階にホールを設け、そこに出版会社を集めて飯田橋の顔とする。地元のコンセンサスを得るまでにはいたっていないかもしれないが、さらに研究を進めたい。

2)は神保町側とつなぐ防災船着場や橋もできる予定。ただ単に橋を架けるのではなく、人が集まるような親水性を高める場所にしたい。車道だけの通りもあるので、倉庫を造るだけで終わるのではなく、緑も植えたい。

3)は、我々のまちとしての、ハートフルな再開発の実現を目指して、問題提起をしていきたい。現実の問題では、ここに幅15m、長さ300mの広場ができる。これを果して活かしきれぬのが、決める段階からいっしょに考えていきたい。

4)は、目白通の植栽整備など住民参加のまちづくりをやっていこうというもの。商店街だけではなく、住民全体で活動するものだと考えている。

6. 東京ロードランナーズ・クラブ

多くの人たちが皇居周りのジョギングを楽しむことが、千代田の魅力な都市環境整備に貢献すると確信し、「まちづくり走り屋“道楽衆”」を改名して活動を続けたい。1年目に、日比谷公園の中に、ジョガーが着替えやシャワーなどを手軽に利



用できる「日比谷ジョギング館」を提案した。その実現と整備をめざし、さらにその詳細を練る。

屋外ワークショップは、来春に皇居周回5キロコースを利用して、8周～1周の〈走り&歩き〉の集いを開催する。

またネットワークづくりとして、2か月

に1度、神田の銭湯に集合し、走ってから銭湯に入る、〈ジョギング銭湯〉を開催する。ゴルフをやる方々との交流も図りたいと考えている。

東京都は都市型観光・集客都市を目指して産業振興政策を展開している。今後も日本の表玄関としての千代田区では、滞在中の外国人も自国にいる時と同じようなライフスタイルが送れることが大切。その上、一般日本人と触れ合える空間が必要だと思う。それにはランニングが最適で、私たちは「千代田の街割り」を、地元の方々と共に走りたい。



Q・ジョギング館の実現について、裏付という自信はあるか？

A・ニューヨークなどでは、実現している。アメリカのことはいずれ伝搬するから日本にもできると思う。

7. 番町まちづくり文学館

(旧番町文学会)

六番町の居住環境を考える中で、数多くの文学者、文化人が住んでいたことが分かった。それが住人にも知られないまま、そのような文化的な痕跡も消えようとして



いる。唯一、泉鏡花の屋敷跡として記されている顕彰プレートがある。

それらを復活させるということで、本来の目的は「番町文学館」であるが、その基礎研究としての、番町文化地図(ガイドマップ)をつくり、文学(碑)プレートを設置する活動を続けたい。(詳細は配付資料参照)。今回は二番町、四番町、五番町を対象にやっていく。

地域の「プライド・オブ・プレイス」が高まることにより、まちづくりも完成していくと考えている。



Q・すばらしいガイドマップは、どのような形で地域へ還元していくのか？

A・六番町のは六番町には2000部配り、あとの1000部は周辺の方々に配布す

る。区の施設、番町小学校などに置かしてもらおう。また講演会なども開きたいので、そこでも配りたい。

Q・無料配布はもったいないので、有料にして、次の活動資金にしては？

Q・カルチャーセンターなどにもアプローチしてほしい。ワークショップなども有効ではないか。

A・2回目以降はできればそうしたいと考えている。

8. 花咲かじいさん

花を通じて、心豊かなふれあいを深め、地域を活性化し、消えつつある向こう三軒両隣りの関係を千代田区中に取り戻す活動。助成金のおかげで、170個の花鉢を早稲田通りに飾った。水やりの問題解決の



ため、里親制度をつくり、戸別訪問して30件の里親が誕生する。12月5日に里親大会を開き、1年間を振り返り、交流を深めたい。

花鉢が縁で富士見小学校にも交流の輪が広がる。富士見小学校の理科園に10年来放置していた7トンの土を子どもたちやPTAと共に再生させ、子どもたちといっしょに種植えや苗を育てて花鉢に移す作業もできた。

白ゆり学園小学校から招かれて社会科の時間に活動について子どもたちに話をしたらお礼のお手紙がきて励まされた。今後もこの活動を続けていきたい。



Q・里親に水やりをしてもらっただけでなく、今後も活動を維持するための資金協力も訴えていくべきではないか。

Q・支出内訳の視察調査費20万円とはなにか？

A・全国の花を購入していく上で、地方にはどんな花があるのか出かけていったり、交流している岩手の小学校は校庭も広いので種を送って育ててもらったりしているので、交通費や送料、交換会などを開く費用として使っている。

9. 歴史・文化のまちづくり研究会

第1回のサポート助成で、神田多町周辺の歴史的建造物、181個をリストアップした。今回は、その中から特徴ある建物を5~10個ピックアップし、そのまちらしさのキーワードを探し、マップをつくる。その建物の所有者にヒアリングしてキーワードをまとめ、マップに落としてマップ案を作成。それを所有者や講師とともに検討する。

完成したマップは歴史を活かしたまちづくりのために区内の各施設などに置か



せてもらって区民に配布する。

より多くの人に歴史的建物の良さを理解してもらい、その保存や活用などを考え、地域の歴史や文化を活かしたまちづくりを目指していきたい。



Q・せっかくつくったマップとキーワードを探るだけでなく、それを活かして、所有者の話なども、冊子やホームページで知らせてはどうか。

A・そこまで話を膨らませていきたいとは思っている。印刷物でも、建物の簡単な説明などを載せたい。地域の物語があれば、それも紹介していきたい。

Q・所有者などの話を掘り下げていくことと、まちづくりに繋げていくこととどちらにウエイトがあるのか？

A・ウエイトはまちづくりにあるが、ヒストリーも大事だと思っている。

10. 神田蕎麦の会

神田のまちと蕎麦屋の新しい関わりを考える会として活動していく。「良いまちは良い店を産み、良い店は良いまちを育てる」ということばがある。昔ながらの下町神田といえば蕎麦の名店が揃っているのではといわれるが、かつては一つの町会に一軒は繁盛している蕎麦屋があった。地域の衰退とともに、じりじりと少なくなる。バブル以前の平成元年、麺類協同組合

神田支部に加盟の店が約68軒あったのが、現在48軒だ。

経営能力の問題もあるが、いちばんの原



因はまちに活気がなくなったからだ。空きビルだらけで住民も少ないから、出前もほとんどない。夜は全く商売にならない。そこで何とかしなくてはと、創業120、130年の老舗の蕎麦屋の若旦那衆が活動を始めた。毎日新聞の記事にもなったが、『KANDALネッサンス』という地域誌にも記事を載せてもらった。

周りにコンビニができ、ここでは各種の予約もできるし、情報発信ができるのに、なぜ我々はそれをしないのか。蕎麦屋の利用の仕方も何とかできないか。昔は生きていた、地域の中での蕎麦屋の存在が薄れてしまった。地域のリーダーとして蕎麦屋文化を育てていきたいし、『神田蕎麦ニュース』を発刊したいと思う。



Q・問題意識はすばらしい。なぜ麺類協同組合ではやらないのか？

A・もう自分の代で終わりだからとか、変なプライドが邪魔をしている。

11. フラワーサークル2000

花のあるまち、美しいまちに住みたいと望む近所の有志で、花いっぱい運動を始めた。区の公道なので許可をとって、街路樹の根元に花を植えた。千代田区土木課により児童館前の通りの街路樹下の土の入替えをしていただき、住民ボランティア・サークル40名で購入・寄贈した花を楽しく植えた。

大妻通り(一番町~大妻女子大)に企業



ボランティア45名で清掃、花苗植付けと水やりを行った。

会則を作成し、10月14日には総会開催の予定。今後はホームページの開設や、英国式ガーデニングの講習会、ミニショップバザール、など、地域交流イベントを行いたい。お花を通して、コミュニティの輪を広げ、地域のための企画を実現していきたいと思う。

◇

Q・いろいろなことをしようとしているようだが、今回の申請は花の植えつけだけについての助成か？メンテナンスはどうしているのか？

A・もっといっぱい花を植えてという要望が多い。100名の会員が花の世話を無償でしてくれている。

Q・地元の町会の方たちとは話をしているのか？

A・一応はしている。「花咲かじいさん」にもお声はかけた。連合町会長さんへお話しする旨は区にも言っている。

12. AKIBART実行委員会

会名はAKIBA(秋葉)とART(美術)を合成した。アートをツールとしてまちを活性化することを目的とする。

駅を通過するだけの場所だけでなく、住む人や駅を利用する人のコミュニケーション



の場とするところまで、アートでやっていきたい。

プロジェクトは昨年12月から、JR秋葉原駅構内に1か月に2、3作品をリレー方式で展示できるよう、JR側と交渉している。9月まで4回に分けて実行する予定。9月以降もできればやりたい。地域の人たちとどうやってコミュニケーションをとっていくかを考えている。「神田SU」のご協力を得て展示報告会を開くことになった。アーティストと地域の人たちとの交流の場にしたい。

作品制作の姿勢や質も、まちの人や駅の利用者といっしょにつくることを特色に、

企画の段階でもボランティアを呼びかけ、地域の人たちと取り組むつもり。商店街には寄付も呼びかけていきたい。また、マップや記録集の作成、さらに子どもたちとつくる計画も検討中である。

◇

Q・JR側との交渉など、かなり準備が進んでいるのか？

A・秋葉原駅の助役や駅長さんからも、ぜひやってほしいというご意見を伺っている。

Q・アートの質や素材、作品自体は、まちづくりと関連させて考えているか？

A・作者の選考を「パブリックな場所で人々と接することやまちづくりを意識して制作しているアーティスト」に限定して声をかけている。

13. アマチュア無線「新千代田クラブ」

非常時におけるアマチュア無線通信ネットワークを提案する。阪神淡路大震災の被害状況はまだ記憶に新しい。千代田



区も防災設備の充実や避難場所の整備など災害発生時の準備を推進している。

しかし地震直後の混乱は避けられず、地震発生後の数日間はライフラインが不通になることが予想される。そういう状況下での通信は、携帯電話、防災無線などであるが、最近システム自体が基地局で中継するので、基地局がダメージを受けると通信が途切れてしまうわけだ。

私たちは日頃、自宅や会社、車中などにそれぞれ無線機をもっており、中継局を通さずに直接交信できる。災害時には非常に有効だと思う。メンバーは千代田区在住で、万一災害が起きた場合すぐ行動できる。ボランティアで非常時通信のネットワークをつくることを考え、1年間で5つの活動を計画している。

1)非常時通信の訓練、2)都内での電波の伝わり方、効果の調査、3)救命救急講習を受けて習得、4)無線免許取得の講習会、5)千代田区防災課その他行政との連

携方法の検討。以上を柱とし、災害時にも安心できるまちづくりをめざす。

◇

Q・区の防災課との相談は？

A・30年ほどやっている間に責任範囲など何回か話し合っている。

14. みんなの居場所提案会

神田を含め都心には、自分の家以外に人々の居場所となるような共有空間が少ない。集合住宅の共有空間が欠如しているのではないかと考える。かつての賑わいのあった神田らしさを取り戻すためにも、「みんなの居場所」はコミュニティ形成に不可欠ではないかと考える。

そこで、神田の空地問題を対象に考え、地域のリビングとなるような「みんなの居場所」を提案する。神田多町は生活してい



た人たちが、地上げなどで出ていき、空き地が増えている。しかし昔ながらの仕事をしている職人さんなども住んでいる。現在、在住の人々がどういう居場所を求めているか意識調査をし、調査の結果を分析し、仮説を立て、提案したい。

具体的にはアンケート調査、住人だけでなく神田に通勤、通学する人にもインタビューする。これまでの勉強会の結果考えられるみんなの居場所は、貸し農園の畑や、本を持ち寄れば図書館、趣味の陶芸や手芸作品のあるギャラリー、誰でも使えるコンピュータールームなど。

今後、集合住宅の共有空間のあり方を学習し、建築家を招いての講習会も企画している。みんなの居場所プログラムマップを作成して模型をつくり、学生だけのメンバーだが、建築のレベルまで提案していきたい。

◇

Q・多町についていつごろから調べ、地元の人と話しているか？

A・今年の4月ごろから。まちで出会った人たちと話す程度。サポートのような機会を利用して交流を深めたい。

審査委員の第1次投票で、グループを助成に「賛成」「中間」「反対」の3つに分けて質疑応答・討議に入る。

(委員の賛成多数のグループなど一部の討議は省略しました。〔 〕内は審査委員名、肩書などは2頁、敬称略)

1. TOKYO住環境研究会

〔森〕記録の作成も大事だが、それをどう活かすか、どう地域に還元するかが大事。展示会とか次の展望は？

A・展示会用に過去の写真など資料を集める努力もしたが、CD-ROMを完成させてからにしたい。ホームページを開き情報発信することも考えている。

3. 外堀遊縁研究会

〔北沢〕NPO設立の準備もしているそうだが、手を広げすぎて焦点が見えない気もする。中心軸は何か。

A・夢のある活動には様々な計画もないとだめだ。それらが関連しているので、一番の問題を解決すればほとんどのことがうまくいくと考えている。

4. まちづくり神田工房

〔三枝〕3年目なので何か一つ具体的、現実的な仕上げとしての実践がほしい。

A・公共空間の利用を問いかけ、捉え直す事から始めた。次のステップとして具体的な提案と実践をしたい。

〔森〕街路空間の利用など発想はいいと思うが、まちを外からばかりでなく、もっと内側から見つめてほしいと思う。

A・住民へのアンケート調査や働く人たちにもインタビューもしてきた。

5. 飯田橋地域の開発を考える会

〔森〕どのくらい住民が願っているプランなのか、よくわからないのだが。

A・模型を作り、商店街の人たちや住民に呼びかけて、それを見せて一人一人の意見を聞いている。今後、時間がかかっても続けて固めていこうと思う。

6. 東京ロードランナーズ・クラブ

〔平岩〕名前は変わったが、やはり“道楽衆”で、今回は特に「ジョギング館」の設立というハード的な側面の活動だ。アイディアコンペだけではなく、具体的な提案をたたき台でも示してほしい。

9. 歴史・文化のまちづくり研究会

〔平岩〕一般市民の提案と比べ、プロ集団の提案への目は当然厳しくなる。単純に歴史的建物のキーワードを探るのではなく、どんな価値があるのか、具体的に明示するべきだと思う。

10. 神田蕎麦の会

〔平岩〕具体的には何をやりたいのか。

A・暗中模索中だが意識づくりから出発し、まず店にこのサポート・グループのパンフレットを置くなどまちづくりの情報発信の場となることも考えている。

11. フラワーサークル2000

〔伊東〕テーマはいいが、行政と共同でやっていくというなら、もっと行政に対

して要求していったらどうか。

A・区も動いてくれたが、花の苗は自分たちで寄贈していただく花屋さんを募った。行政と業者と市民とで出せるものを少しずつ出してやっていきたい。

〔平岩〕このサポートは先駆的活動を掘り出すねらいもあるので、すでにある同じような活動には支援が難しい。企業と共同でやる点が新しいので、そこを大事にし、企業ではできないことで、サポートに求めるものを明確にしてほしい。

13. アマチュア無線新千代田クラブ

〔三枝〕重要性はある活動だが内容が無線資格を取るための受験対策講習会というのは、防災のための活動とは異なる。個人の資格をとるためにまちづくりサポートが助成するのはおかしい。

A・災害時に無線資格者の人数が足りないと困るのでメンバーをふやしたい。

14. みんなの居場所提案会

〔伊東〕ただの建築物調査に終わらせず、町の人たちと取り組み合いながらプロジェクトを進行するのが望ましい。

〔三枝〕若いのだからギャラリーでも畑でもやっては？ 現実にやるなら賛成。

〔石井〕人の集まる、心の集まるソフト面をどう結び付けるかだ。ギャラリーの案も日頃の成果に対してもう一步まちづくりを進めようとの意志だと受け止めた。

A・具体的なパフォーマンスの提案には至ってないが、もっと地元の役に立つ提案をしたいと思って応募した。

第3回千代田まちづくりサポート審査表

グループ名	活動企画内容を支持し 今回のサポート助成が 必要だと考える	活動企画内容について もう少し話を聞き、 今回のサポート助成 が必要か判断したい。	社会的に意義ある活動だが、サポートの 助成趣旨にはなじみに くいと考える	今回の助成対象として 推薦する	申請額 (万円)	決定額 (万円)
1 TOKYO住環境研究会	●	◆◆	▲▲▲▲		25	—
2 江都天下祭研究会 神田倶楽部	●●●●●●●●	◆		★★★★★★	50	50
3 外堀遊縁研究会	●●●●●●●●	◆		★★★★★★	50	50
4 まちづくり神田工房	●	◆◆	▲▲▲▲	★★★	40	—
5 飯田橋地域の開発を考える会	●●	◆◆	▲▲▲	★★★★★	50	35
6 東京ロードランナーズ・クラブ	●	◆◆	▲▲▲▲		40	—
7 番町まちづくり文学館	●●●●●●●●			★★★★★★	25	25
8 花咲かじいさん	●●●●●●●●			★★★★★★	50	50
9 歴史・文化のまちづくり研究会		◆	▲▲▲▲▲▲		25	—
10 神田蕎麦の会	●●●	◆◆◆◆		★★★★★★	30	30
11 フラワーサークル2000	●●	◆◆◆◆	▲	★★★	50	—
12 A K I B A R T実行委員会	●●●●●●●●			★★★★★★	50	50
13 アマチュア無線「新千代田クラブ」	●●	◆◆◆	▲▲	★★	46.6	—
14 みんなの居場所提案会	●	◆◆◆	▲▲▲	★★★★	37	10

審査員講評 (敬称略)

第3回千代田まちづくりサポート 全体講評 審査会会長 卯月 盛夫



今回は14グループの応募に対して、わずか8グループしか選ばれないという、これまでにない厳しい審査の結果となりました。特に、2回目で活動し、3回目にも応募したグループ9つのうち4グループが選にもれてしまったことには大きな理由があります。このサポート事業は同一グループに対して、3回を限度に助成することができると規定されていますが、すべてのグループに3年間継続助成できるとは限りません。単年度の審査ですから、長期的な目標と共に、常に各年の目標

と成果を明確にしないと、実は3年間継続するのはかなり難しいかもしれません。そういった意味から、今回選にもれたグループは「成果イメージ」が若干希薄だったように思います。それに対して選ばれた5グループは、着実に各年の成果を積み重ねています。選ばれなかったグループにも1年間助成は休止しても、次回に助成することも可能ですので、さらに活動を継続されることを願っています。

さて、初応募のグループは今回5つと若干少なかったのですが、公開審査会では大変興味深い発表と議論が展開されました。たとえば「AKIBART 実行委員会」は、これまでのグループにはない企画力と卓越したプレゼンテーションで、会場のみならず感嘆させました。また、「神田蕎麦の会」の企画に対して審査員は、「問題意識は高いが、具体的に何の活動をするのかわからない」という意見が多かった時に、会場の他のグループ

から、「お蕎麦屋さんと一緒に活動したい」というプロポーズがいくつか寄せられました。神田蕎麦屋の持つ「場の魅力」が突然クローズアップされ、今後の活動に大きな可能性が広がり、助成が決まりました。さらに、なぜ「花咲かじいさん」は助成されるのに、「フラワー2000」は助成されないのか、についてもかなり議論されました。しかし現在のまちづくりサポートの性格上、「先駆性」が重要との判断に落ち着きました。もちろんすべての問題が解決したわけではありませんが、いずれにしても、みんなで「まちづくりサポート事業」のあり方を探っていこうという趣旨にふさわしい公開審査会だったと思います。

最後に、この千代田まちづくりサポート事業の助成グループから、「住宅とまちづくり研究会」という「NPO法人」が誕生したことを報告し、今後の「まちづくりNPO」としての活動に大きな期待を寄せたいと思います。

1. TOKYO住環境研究会

(伊東敏雄)



都市のダイナミズムをウェブ内の映像として記憶する試みは重要で今日的なテーマです。さらに街づくりをする市民共有の資産として、様々な議論、企画、構想の原動力となるように、その過程の道具として考えるべきです。都市計画のデジタル映像情報の構築は企業が既に始めており、草の根的な新しい独自の価値観による、市民、個人、弱者よりのものを提示していくことが大切。グループはデジタル情報の精緻化の方向に向かい、インターネットへのサイト構築、出力画像展示等の活動に入ります。街づくりへの踏み込みは必ずしも予定していないという発言もあり、やや内向きであると思われ、助成の対象にしない結論となりました。新しい視点での挑戦を期待します。



国指定史跡であるが、ほとんどスポットが当たらず、管理責任者もあいまいな牛込見附の価値を見出し、その風致美観を思索するとともに、石垣等の修復、牛込門の復原、ひいては連鎖的な街づくりまで視野に入れ

た多彩なプログラムを持つ。牛込見附の模型づくりに続き、いくつかの観光グッズを開発提案、自立への努力が見られる。問題意識は牛込から旧見附全体に広がりがあつたが、本年度は中間報告でも良いから「牛込御門を通った先人達の歩み」を何とか形にして欲しい。

4. まちづくり神田工房

(伊東)

このグループは道広場の研究と共用空間の利用形態、街づくりの根幹に拘わる問題に取り組んでいます。その調査研究を踏まえて街路空間のデザイン論へと展開、街路に繋がる建築の景観設計の分析に向かい、研究がタウン誌「ひらけ玉手箱」の編集出版に集中していく印象がありました。街路空間の「リ・デザイン」の着想も良く、「ひらけ玉手箱」2000年総集編では、世田谷ポロ市や神田駅西口通、神田古書店街、さくら通、靖国通、丸の内中通、銀座金春通さらに東武3ヶ国の街路空間と広く紹介しています。ここから何を提案していくか。その分析、総合、提案、評価の流れが見えてこないのが今回の支援を逡巡させた理由です。活動をまちネットで継続してまた挑戦して欲しい。

5. 飯田橋の開発を考える会

(石井 峻)



JR飯田橋駅の南東側約9haにおよぶ大規模な開発が進行中である。今回3回目の登場だが、メンバーは直近の自営業者や主婦たちで、各々これを契機に自己研鑽を重ね、またその多くが新しいまちづくりに向け

た地元・企業・行政からなる協議会にも参加しつつ、構想から実施にいたる各段階において具体的に提言し多くの成果をもたらしている。

千代田は日本をリードしてきた古い街だが、いま全域にわたりリニューアル期を迎えている。こうした形でのまちづくりのあり様は先行事例としての足跡を残すものと期待してい

6. 東京ロードランナーズ・クラブ

(伊東)

「道楽衆」の活動は、「千代助」の事業の成功に大きく貢献しました。走ることで街を作ることを繋げてくれたのも意義で、さらに展開してほしい一つです。都市が集客性を持った空間として洗練され、都市観光が次世代の大きいテーマになるとの指摘も適切でした。国際化への提言もあり、ユニークでソフトな提案が評価されていたのですが、今回の提案が日比谷公園等に環境影響の出そうな、ハードとしての空間のアイデアコンペティションを行うことを主としていたので「千代助」の主旨としては乖離するとして、今回は見送ることになりました。折角の「都市エアロビクスインフラ」というテーマが消えるのは無念です。是非継続していくべき活動です。

7. 番町まちづくり文学館

(平岩)

プライド・オブ・プレイスを育むことを目的に、文学碑プレートの設置や、将来的には「番町文学館」を目指しているとのこと。ただし、行政施策にありがちな“箱モノ”づくりから入るのではなく、「番町文芸地図づくり」というソフト面からアプローチしている点が、市民ならではの発想です。昨年作成した「番町文芸地図 六番町編」には、文人や史跡についてのエピソードや写真が盛り込まれ、多くの文献や資料を調べたようすが伺われます。大きな夢に向かって基礎づくりをかためてください。まち歩きや聞き取り調査を通して、多くの人に興味や関心をもってもらうことも大切でしょう。それらの体験は、今後の活動を発展させていく上で、貴重な財産になると思います。

2. 江戸天下祭研究会 神田倶楽部

(平岩千代子)



これまで2年間の活動で収集した写真等の一次資料や、聞き取り調査をもとに書き起こした「氏子町会地図」等の2次資料は、自分たちの生まれ育った地域と、そこで継承される祭りに、深い愛着をもつ住民による

活動だからこそ収集できた貴重なものです。いよいよ今年は活動を集大成する年です。仲間内の成果として満足するものに止まらず、編集等にも知恵を結集して、社会の共有資産となるよう、もう一頑張りしてください。インターネットの時代です。英語併記なども視野に入れると、日本を研究する外国人研究者などからのアクセスも期待できるのではないのでしょうか。

3. 外堀遊縁研究会

(森まゆみ)

8. 花咲かじいさん

(森)

早稲田通り沿いに工夫に満ちた手づくりの花鉢約30個を飾るという成果に加え、地元小学校との協力から、子供たちの心に花を愛する心、大人を信ずる心を植え付けることに成功したようである。今年度は地域を広げつつ、花を育てる土作りや公園の見直しとより広汎な活動へと向かう。拙速な活動や被害者意識をいましめ、「明るく仲良く交流していきたい」というイソップ物語の太陽のような姿勢、それによる自然な運動の広がり、次々と出される新しいアイデアには、いつも脱帽させられる。

9. 歴史・文化のまちづくり研究会

(伊東)

地元とのコミュニケーションもあり、第1回の助成も受け、その実績からも成果が期待されます。キーワード・マップの作成が主要活動とのことでしたが、都市の形態的記憶の遺構がどう街づくりに拘わってくるのか、都市全体が次世代に向けて変容を迫られているとき、歴史と文化がどう織り込まれていくべきかという方法理論の提示のないままキーワードマップが成立していくものなのか審査の過程で問題になりました。キーワードの果たす機能について明示があつて初めてこの活動が優れた専門家の手によって成果をもたらすのではないかと判断で助成の対象として弱いという結論でした。質疑にも答えを出し決っていた印象があります。厳しい対応かも知れませんが「千代助」には人材育成の機能もあります。

10. 神田蕎麦の会

(三枝敏男)



祭りに続いて神田らしい会が出てきたことを大変嬉しく思っております。近年、ラーメンやパスタに押されて日本蕎麦に元気がありません。さらに立ち食いチェーン店の影響もあり「お蕎麦屋さん」が減っています。「江戸時代から麩と続いた神田の蕎麦やはどうなっちゃうんだ、もう我慢できなー。伝統の暖簾は俺たちが守る！」とのろしをあげた若いエネルギーに期待してます。「神田っこ蕎麦」が札幌ラーメンを凌駕する日を目指して、仲間割れしない様に、理屈抜きで突っ走って下さい。

11. フラワーサークル2000

(伊東)

花と祭りとの多い街をテーマとするこのグループの活動はNGO、NPOの活動として考えられます。メンバー20人、会員103名、有力企業の協力も得て、千代田区土木課と提携して一番町児童館前の街路樹の下の花壇に花を植えた実績があります。「千代助」の対象の少ない一番町児童館地区からの提案でもあり有力と思われましたが、活動がやや拡散的になりそうなプレゼン

テーションで低い評価となりました。生活ホットライン、インターネットによる生活必需品の購入、中高年者向けパソコン教室、「千代田大好き祭」の実行等、「花一杯運動」とは別の活動に展開していくのが目的達成の阻害となる危機を指摘されました。一面では、サポートを必要としない高度な活動との評価とも言えます。再挑戦して欲しいです。

12. AKIBART実行委員会

(北沢 猛)



秋葉原駅でのアートイベント。その着想が新鮮であった。企画も良く練られたもので審査会でのプレゼンテーションも実にわかりやすく、やりたいことや主張が明確で実現の可能性も含めて、高く評価できる。展示やインスタレーション、利用者も巻き込んださらなる展開など楽しみである。また「神田蕎麦の会」と協力して「SOBART」ができないかなどと話題になったが、是非実現して欲しいものである。これを出発点に街とアートのいい関係が生まれることを期待する。

13. アマチュア無線「新千代田クラブ」

(伊東)

アマチュア無線等を含め、震災時の災害防災避難情報システムは多種多様であれば強靱なものとなります。アマチュア無線は特に海外への対一の直接通信が可能な媒体で、それは千代田区の総合防災システムにとって重要です。そうであるならば、区の行政自体が必死に取り組むべき課題でしょう。「新千代田クラブ」は昭和47年に設立され、NGO的性格の団体で、会員拡大や資格受験研修、情報発信器材の購入予算に重きが置かれている点、「千代助」の助成対象と性質が違うのではと議論されました。複合防災情報システムの設計は是非継続して欲しいのですが、公共インフラ的な要素が大きければ大きいほど、街づくり活動の筋から遊離します。関係当局との折衝を重ね、この活動を推進するよう期待しています。

14. みんなの居場所提案会

(石井)

神田は職人町として栄え、その名ごりを色濃く残していた。神田祭に象徴される神田っこの気概いまだ衰えず、今も下町の人情は息づいている。しかし表通りから一歩中に入るとバブル期の傷あとを数多く残しているのも現実。これまで培ってきた「神田らしさ」をどういう形でルネッサンスしていくか、大きな課題である。このグループは日本大学の建築サークルの「若者たち」で、学内で神田市街のリニューアルにハード面から取り組んできた。それにあき足らず、ビル化が進みつつある街中に住み、働く人々のふれ合いの場、ぬくもりの感じられるまちのあり方をテーマに、地域と一緒に考えて提案していきたいとのこと。上すべりせず、地に足つけた活動を望みたい。

(財)千代田区街づくり推進公社賛助会員一覧

(法人118社・個人61人 計179) 2000年3月31日現在

*この事業は下記の法人会員と個人会員の会費によって支えられています。(個人会員は省略させていただきます)

<保険関係>

千代田火災海上保険(株)
大成火災海上保険(株)
太陽生命保険相互会社
三井海上火災保険(株)
日本火災海上保険(株)

<不動産関係>

㈱大京
安田不動産(株)
住友不動産(株)
三菱地所(株)
三井不動産(株)
三幸エステート(株)
㈱お茶の水スクエア森ビル産業
森産業トラスト(株)
大日本企業(株)
協永不動産(株)
㈱共立エステート

<金融機関>

㈱東京都市銀行神田支店
㈱第一勧業銀行麹町支店
㈱さくら銀行
安田信託銀行(株)
神田信用金庫
興産信用金庫
東洋信託銀行(株)
中央三井信託銀行(株)
㈱住友銀行
㈱三和銀行
㈱東京三菱銀行
住友信託銀行㈱東京営業部
農林中央金庫東京支店
㈱東日本銀行飯田橋支店
芝信用金庫
太陽信用金庫神田支店
㈱あさひ銀行本店
㈱日本興業銀行
㈱大和銀行
㈱わかしお銀行本店営業部

<建設設計>

日本橋興業(株)
㈱山下設計
㈱松田平田
㈱レック都市地域研究所
㈱アイテック計画
㈱アーバン・トラフィックエンジニアリング
㈱ポリテックエイディティ計画研究所
エヌティティ都市開発(株)
㈱新都市開発機構
㈱環境開発研究所
㈱橋山設計
㈱A・Dプロジェクト
㈱アルセッド建築研究所
マト設計・コンサル(株)
安田総合計画(株)
㈱オール・アイ・イー
㈱都市環境計画研究所
八重洲コンサルタンツ(株)
㈱アーバン・ウイング
パシフィック・コンサルタンツ(株)
㈱伊藤建築設計事務所
㈱ラウム計画設計研究所
㈱都市映像研究室
㈱日立建設設計
㈱東京建築士事務所協会千代田支部
㈱エコプラン

<建築・土木関係>

大林道路(株)東京支店
㈱鏡高組東京支社
西松建設(株)
㈱竹中工務店東京本店
鹿島建設(株)
三井建設(株)
前田建設工業(株)
㈱大林組東京本社
大木建設(株)
飛島建設(株)東京支店
戸田建設(株)東京支店
㈱熊谷組東京支店
長野建設(株)東京本社
㈱間組東京支店
不動建設(株)
㈱久保工
東洋建設(株)東京支店
大成建設(株)
鉄建建設(株)
清水建設(株)東京支店上野事務所

<ビル管理>

東京美化(株)
富士建物管理(株)
鹿島建物総合管理(株)

<広告代理業>

㈱イサミヤ

<販売・興業関係>

東宝(株)
㈱そごう東京店

<電機・通信関係>

㈱日立製作所
日本電気(株)
三洋電機(株)

<その他>

秋葉原西口商店街振興組合
秋葉原中央通商店街振興組合
秋葉原商店街振興組合
㈱明正社
神保町1丁目南部地区市街地再開発組合
丸丸(株)
㈱東京読売サービス

編集・発行 (財)千代田街づくり推進公社 企画情報課

東京都千代田九段南1-6-17 千代田会館2階 TEL.03-3262-0211 FAX.03-3262-0213

公社ホームページ <http://www2.odn.ne.jp/citystation/>

E-mail:makecity@pop17.odn.ne.jp